

褐色尿からメラニン尿を同定した1症例

©山口 高明¹⁾、長嶋 和子¹⁾、星 雅人²⁾、櫻井 昌代¹⁾、榎本 喜彦¹⁾、藤田 孝¹⁾、石川 隆志¹⁾
藤田保健衛生大学病院¹⁾、藤田保健衛生大学²⁾

[はじめに] 進行した悪性黒色腫(主に肝臓など)では、尿中にメラノゲンが大量に排泄される。排尿直後は黄褐色を呈するが、尿を放置する事により、メラノゲンからメラニンへと酸化し、表層より黒変していくことが知られている。今回我々は肉眼的に褐色尿を呈した患者検体を、メラニン尿と同定するに至った症例を経験したので報告する。

[症例]50歳代後半、女性。主訴：2016年3月頭頂部の皮疹に気づき、近医受診。同年5月頭部腫瘍切除が施行され、悪性黒色腫と診断された。経過：同年6月当院紹介となり、PET-CTにて両肺に多発結節、肝右葉に巨大腫瘍が認められた。また12月に多発骨転移、2017年1月には脳転移も認められた。同月、放射線療法及び抗癌剤治療のため当院入院。同年3月より褐色尿が認められたため、外傷性または膀胱炎による血尿疑いで尿検査が施行された。

[検査所見]尿外観：褐色尿、尿定性：pH5.5、比重1.030、蛋白(1+)、糖(-)、潜血(±)、白血球(1+)、ウロビリノゲン(1+)、亜硝酸塩(+)、ビリルビン(判定不能) 尿沈査：赤血球(1-4/HPF)、白血球(30-49/HPF)、細菌(2+)、生化学検査：

血中総ビリルビン(0.8mg/dL) 追加検査：イクトテスト(-)、トルメーレン反応(+)

[考察] 提出された尿検体は褐色を呈しており、外観上血尿を疑ったが、尿定性・沈査の結果から血尿ではないことが分かった。次にビリルビン尿の可能性を考え、試験紙では非特異反応により判定不能であったが、血中総ビリルビン値が0.8mg/dLであることや、イクトテストが陰性であることから可能性は低いと判断した。尿の色調が血尿やビリルビン尿で説明がつかないため、臨床経過よりメラニン尿の可能性を考え、トルメーレン反応を行ったところ陽性を認め、メラニン尿と同定した。[まとめ] 褐色尿からメラニン尿を同定した症例を経験した。褐色尿が提出された際、血尿やビリルビン尿をまず考える。しかし尿定性と尿沈査の結果に乖離がない場合でも、尿の色調が血尿やビリルビン尿で説明がつかない際は、メラニン尿を疑いトルメーレン反応を追加検査で行うことが有用であると考えられた。発表では、トルメーレン反応及び尿の外観と治療効果との関係性も考察していく。 連絡先：0562 (93) 2300